所長 林 徹

このたびは放送大学ご入学、たいへんおめでとうございます。

今学期、合計 約 1400 名の皆さんが、新たに当学習センターにご所属となりました。心より歓迎いたします。

ところで、ご存知のように、ここひと月ほどは新規感染者数が減少を続け、「緊急事態宣言」も解除となり、皆さん、ほっと一息ついているのではないかと思います。実は私も、昨日、近所の焼き鳥屋さんで、本当に久しぶりに、2杯ほど、生ビールをいただきました。感無量でした。

ただ、今回の新規感染者数の減少については、まだわからないことも多く、当学習センター客員教授で、国立国際医療研究センターの杉山先生によれば、今後ふたたび新規感染者数が増加する可能性は、低くはないとのことです。確かに、ワクチン接種が進み、今年 6 月に感染防止のための規制をほぼ解除したイスラエルでは、7 月から再び新規感染者数が増加し始め、9 月にはこれまでで最多の新規感染者数を記録しています。本当に油断のならないウイルスです。

当学習センターでは、「緊急事態宣言」が発令されている間でも、近隣地域の感染状況を確認しつつ、また、さまざまな感染防止対策を講じつつ、できるかぎり学習センターの機能を維持してきました。例えば、第1学期の面接授業については、3割の科目は中止せざるを得ませんでしたが、1割はオンラインで、そして6割の科目は、なんとか頑張って対面で実施しました。通信制の放送大

学にあって、対面で先生と向き合える機会を確保することが非常に重要だと考えたからです。

感染をどのように防止するかは、非常に困難な課題でしたが、杉山先生をはじめ、客員教員の先生方の心強いサポートをいただくことができました。流体力学がご専門の河村先生には教室の換気について、基礎科学がご専門の森先生、そして細胞生物学がご専門の細谷先生には消毒の方法について、さまざまな助言をいただきました。そして、何より、学生の皆さんのご協力とご理解により、困難な状況を乗り切ることができました。第2学期も、専門の先生方から助言をいただきながら、皆さんの安全を確保しつつ、学習センターの機能の維持に努めていく所存です。まだしばらくの間は、通常どおりとはいかず、ご不便をおかけしますが、皆さんのご理解とご協力をお願いする次第です。

前置きが長くなりました。今日は、皆さんへの祝辞として（あまり祝辞っぽくありませんが）、「放送大学で学ぶということ」と題してお話をさせていただきます。

皆さんが入学した放送大学には教養学部教養学科というひとつの学部、ひとつの学科しかありません。（大学院も文化科学研究科文化科学専攻というひとつの研究科、ひとつの専攻しかありません。）

工学部、法学部、文学部など、一般的な学部では、そこで学ぶことのできる研究分野が限定されており、さらにそれぞれの学部で学び続ける過程で、学科、コース、専修課程などを選びつつ、最終的に自分の専門分野にたどり着くようになっています。次第に枝分かれしていく構造です。そのため、かなりの数の授業が必修科目に指定されていて、決められた授業を決められた順序で履修することが求められます。

一方、教養学部には、このような枝分かれ構造はありません。代わりに、多様な授業がネットワークを成しています。従って、必修科目や履修順序の指定はごくわずかです。むしろ、学生の皆さんが主体的に授業を選んで、最終的に自分の専門分野を作っていくことが求められます。

そのような教養学部での学びにおいてもっとも重要なのは、主体性と、自分の興味への忠実さではないかと思います。もちろん両者は無関係ではなく、自分の興味がなければ主体的に学ぶことはできません。

とは言え、授業を自ら選びながら学んでいくのは、なかなか難しいものです。自分なりに履修計画を立てたり、毎日の生活の中で勉強するタイミングを決めたりするなど、いろいろな工夫が必要となります。どんな授業を受けるかを決めることや、勉強のスタイルを確立することも、教養学部における学びの一部だと考え、少しずつ教養学部での学びに慣れていっていただければと思います。

ただ、それでも壁にぶつかることもあるかと思います。そのようなときは、ぜひ学習センターの学習相談をご利用ください（学習センターのウエブサイトから学手相談のページに入れます）。まだしばらくは、自由に学習センターにお越しいただくことは叶いませんが、インターネットなどを通じ、皆さんとの接点を維持していきたいと思います。

放送大学での学びが充実したものとなるよう、心より願っています。

2021年10月3日

放送大学東京文京学習センター所長

林 徹